

【日 時】平成19年1月23日(火) 19:00～21:10

【場 所】下山支所2階会議室

【出席者】委員9名(欠席7名)

森林課 (原田課長 加藤副主幹)

事務局 (支所長 副支所長 加藤 酒井 川合)

【次第】1 開会

2 会長あいさつ

3 会議録署名委員指名

4 前回会議録の承認

5 協議事項

・豊田市森づくり条例・構想素案に関する意見交換について

6 ワークショップ

(1)「合同会議の合意点と課題」の整理

(2)「課題解決に向けて」の提言

(3)「下山地域自治のあり方」の検討

7 その他

(1)観光交流シンポジウムについて

(2)わくわくシンポジウムについて

【内 容】

1 会長あいさつ

2 会議録署名委員氏名

兵藤委員を指名

3 前回会議録の承認

一昨年9月から昨年9月にかけて8回のワークショップを開催しましたが、その結果をまとめ報告させていただきました。次に支所体制の見直し・公共施設の有効活用及びトヨタ研究開発施設計画についての状況を説明させていただきました。そして最後に、コミュニティ会議役員会との情報交換会及び第7次総合計画基本構想素案についての意見聴衆の日程調整について協議させていただきました。

(全委員承認)

4 協議事項

豊田市森づくり条例・構想素案に関する意見交換について

(森林課)合併に伴い豊田市の森林が非常に広大になり、豊田市の面積の約7割が森林であります。広い森林が全て健康であればいいわけではありますが、特に人工林を中心に間伐が遅れているということで、病んでいる森林が多くあります。そこで森林行政をどのように進めていくかということで、1年間森づくり条例、あるいは森づくり構想について取り組んできました。そして12月1日よりパブリックコメントを行い、住民からの意見徴収を1月5日まで行いました。

豊田市の森林の将来像ということで、林業として成り立つところは公益的機能が十分に発揮できる人工林づくりを進めるとともに、尾根筋や急傾斜地など、必ずしも林業に適さない人工林は針広混交林・天然林化を進めます。また天然林は植生遷移を基本に保全・活用しますということであります。間伐が遅れていると、水源涵養機能が低下したり、土砂崩れの原因にもなりますので、目標としまして20年間をかけまして、現在過密になっています人工林を間伐していきたいと考えています。林業経営が成り立つところは、林道を入れて間伐を行い太くなった材を売っていかうということであります。間伐を行うにしても一律、市で決めていくことはしませんので、地元の方と協議をしながら森づくりを進めていきたいと考えていますのでよろしくお願いします。

(委員)林業として成り立つところとはどのようなところをいいますか。

(森林課)林道・作業道が開設され、基本的には杉・檜が植林されているところであります。

(委員)今後も、補助金により林道や作業道を整備していかれますか。

(森林課)整備していきます。

(委員)補助金が今後もつきますか。

(森林課)従来行っています間伐の補助金は、この先も続くという前提にしていますが、市だけの財源で実施できるか疑問であります。県が現在、森林環境税を検討していますが、それも活用できればと考えています。

(委員)個人個人が自分の山だけを間伐するのではなく、施業計画図にのっとって、順番に道を入れて間伐していけば、もっと効率的にできると思います。

(委員)木材を伐採してお金になれば、皆さん間伐をしたいと思います。

(森林課)現在は間伐を行っても、実入りがないので間伐を行わないと思いますので、木を伐採して儲かるような仕組みに出来るだけしていきたいと思います。

(委員)山で働く人の年齢も高齢化してきていますので、早急に市として大幅な予算をつけていただきたいと思います。

(委員)パブリックコメントを実施しましたが、内容を変えなければいけないような意見がありましたか。

(森林課)条例については、条文を変えなければいけないような意見はありませんでした。

(委員)林道や間伐にどんどん補助金を出していただければいい方向にいくと思いますので、補助金を出していただきたいと思います。

(森林課)ここ10年が勝負であると思います。皆様のご協力をよろしくお願いします。

5 ワークショップ

(ファシリテーター)12月にコミュニティ会議との合同会議を実施しました。今後は地域会議とコミュニティ会議がいかに連携を図っていくかということがポイントになってきます。今日は合意

事項を固めるということで、地域のコミュニティ会議と地域会議と支所のあり方についてまとめていきたいと思います。

(委員) コミュニティ会議の委員の任期が1年であるということが大きなポイントであると思います。そしてもう一つ核になるのが支所であると思います。支所がきちり関与していただきたいと思います。

(委員) コミュニティ会議の会長は区長会長が務めていますが、下山地区の区長会長の任期は1年で、輪番制になっていますのでそれを変えないといけないと思います。

(委員) 地域会議とコミュニティ会議の連携した問題は出てこなかったかと思います。現場を持って活動しているコミュニティ会議と地域会議とは少しかけはなれているように感じました。

(事務局) コミュニティ会議は設立したばかりであり、出来ることから始めようという状態でありますので、少し時間をおいて少しずつ軌道にのしていくことが必要であると思います。

(ファシリテーター) 今までの現状と課題を踏まえて、下山地区の地域自治というものを考えるときに、どんなことを約束ごととしていったらいいかを考えたいと思います。

支所が地域会議とコミュニティ会議の橋渡し役になることが基本になると思います。

(委員) 当分は、コミュニティ会議と地域会議の間に支所が入ることであると思います。

(委員) 自治区の任期を1年と決めるのではなくて、複数年行っていただきたいと思います。

(委員) コミュニティ会議も地域会議も任期がありますので、メンバーが交代してもいいようなシステムを構築しなければいけないと思います。

(委員) コミュニティ会議と自治区と地域会議の役割を、皆さんに理解をしていただく必要があると思います。

(委員) 今地域会議がやることは、どういう組織やシステムをつくり、地域会議としてどうかかわっていくかということであると思います。そして、その仕組みを地域会議として提案していきたいと思います。

(ファシリテーター) 決定事項として、地域会議の提案をコミュニティ会議につなげるのには当分の間、支所が間に入るということであります。現在は両者の関係が未熟なため支所が間に入りますが、最終的にはコミュニティ会議と地域会議がお互い連携して、支所が間に入らなくてもやっていくことが理想であるということでした。また、地域自治の仕組みを理解していない人が多いということでした。ですから仕組みを知っていただくことが大切であるということでした。そのために、意識改革とPRが重要であるということでした。その仕組みを皆が知っていないと、メンバーが替わったときにまた振り出しにもどるのではないかということでした。また、地域会議の重要性を認識していないので、出席率も悪いという意見もでました。具体的な案件を実施しないと、何をやっているかわからないという意見もありました。自治区の任期を複数年にしたいけども、これは地域会議で決めるのでないという意見もでました。地域会議で話し合ったことを地域の人に知っていただいて、いかに実践するかということが非常に大事であるということでした。いいアイデアが出て、実践する仕組みがないとだめであるので、仕組みが必要であるという意見がありました。

そして来年度4月からどんな活動をしていくかということ、次回決めていきたいと思います。